

イスラエル軍のガザ占領地拡大、住民の避難難民化

パレスチナ・クロニクル・スタッフ

パレスチナ・クロニクル、アル・アラビー、2025年12月23日、脇浜義明訳



豪雨によりガザ地区の住宅ビルが崩壊した後、市民防衛団と住民が瓦礫の中を捜索している。(Photo: via QNN)

イスラエル占領軍はガザ地区で停戦違反を継続し、イエローラインを拡大し、民間人を追放し、飢餓の警告が強まる中、人道・保健危機を深刻化させている。

イスラエル占領軍はガザ回廊で停戦違反を続け、「イエローライン」を拡大し、民間人を避難民として追い出し、飢餓脅威を高め、人道危機と健康危機をますます深刻化している。占領軍はガザ回廊各地での新たに空爆と砲撃を繰り返し、国際機関は再び飢餓が住民を脅かしていると警告している。

アル・アラビーTVは、イスラエル機がガザ中央部のデイル・アル・バラフ市の東、いわゆる「イエローライン」付近の住宅地を空爆したと報じた。この地域はイスラエル軍の占領地内で、安全地帯に指定されていた。

さらに報道によると、イスラエル軍はガザ市東部とアットウファーフ地区を砲撃し、ガザ回廊南部のハーン・ユーニス東部の住宅ビルの破壊を行った。

イエローラインの拡大

アル・アラビーは、最も顕著な動きとして、北部のジャバリヤ難民キャンプの中のいわゆる「イエローライン」の拡大を報じた。イスラエル軍車両が進軍し、小高いところに軍用陣地を敷き、強化していった。この動きのために、テント暮らしの避難民や破壊された家屋の瓦礫の上に掘っ建て小屋を建てて暮らす住民は、西へ向かって移動せざるを得なかった。

占領軍はこれらの地域を前線基地に変え、ドローンや小高いところから装甲車による砲撃で、パレスチナ人を攻撃している。

ガザに飢餓が再び迫る

人道支援状況については、イスラエルによる搬入制限が続いているために、国連や人道支援団体は再び飢餓がガザに迫っていると警告している。

国連難民救済事業機関（UNRWA）は、ガザの状況は依然として厳しく、人道支援の必要性は極めて高いと言っている。UNRWAは、約160万人のパレスチナ人が深刻な食料不足に面していると述べた。UNRWAのメディア・アドバイザーのアドナン・アブ・ハスナはアル・アラビーTVに対し、食料不足はガザ回廊全域に蔓延しており、ひどい食料不足で苦しんでいるパレスチナ人が100万人いると述べた。

国際救済委員会（IRC）も、ガザの飢餓は破局的レベルにあり、約10万人が飢餓状態で暮らしていると言った。IRCは、急性栄養失調に陥っている子どもが数十万人おり、彼らの健康、免疫システム、認知発達への大きなリスクとなっていると述べた。

ガザの「セーブ・ザ・チルドレン」の広報担当者シュルク・アル・アイラは、停戦なのに人道的危機は解消していないと述べた。彼女は、アル・アラビーTVのインタビューで、厳しい冬の寒さの中、とりわけ子どもたちのために、移動式簡易住宅と冬物衣料が緊急に必要だと強調した。

悪化する健康危機

国境なき医師団（MRS）は、イスラエルが国際NGOに再登録を求める方針に変更したので、年末までに命を救う医療を受けられなくなる人が数十万人になるだろうと懸念を表明した。

パレスチナ医療救済協会も、医薬品不足とイスラエルが外国で治療を受けるための出国を制限しているために、慢性疾患者の重篤な合併症の増加を警告している。協会のムハンマド・アブ・アファッシュ理事長は、ガザでは治療不可能で外国で治療を受ける出国も許可されず、いつまで待てば許可されるのかも知らされずに、結局死亡した患者が1,200人だと述べた。

世界保健機構（WHO）のテドロス・アダノム・ゲブレイエス事務局長は、2024年7月から2025年11月の間に、外国で治療を受ける許可を待っている患者1,092人が死亡したと言った。ガザ回廊の病院では医薬品や医療器具が著しく不足しており、患者の出国が厳しく制限されている。外国への医療避難のペースは非常に遅々としている。

ガザの保健省は、21日、医薬品の在庫が危機的に悪化し、必須医薬品が52%、医療用品が71%不足していると発表した。保健省は、イスラエルは医療物資のガザ搬入を月間必要量の30%以下しか認めていないのは、10月10日発効の停戦合意の違反だと述べた。